

式 辞

さわやかな早春の光が差し始め校庭の木々にも新たな息吹が感じられるこの佳き日に、福岡県立修猷館高等学校 平成30年度卒業証書授与式を挙行するに当たり、公私ともにご多忙の中、県教育委員会 委員 木下比奈子 様をはじめ多くのご来賓、保護者の皆様にご臨席賜り、生徒、職員を代表いたしまして心から感謝申し上げます。

只今、四百二十七名の皆さんに栄えある卒業証書を授与いたしました。

ご卒業おめでとうございます。

卒業生の皆さんにとっては、今日のこの時が高校生として最後の節目であり、上級学校の学生や社会の一員として旅立つという新たなスタートでもあります。入学した当時はまだ幼さも残っていた皆さんが、本校の生活をとおして将来の自分をしっかりと見据え、目標に向かって道を切り開こうとするたくましい若者に成長した姿は、頼もしい限りであり、誇りに思います。

さて、今日の世界は、グローバル化や情報技術の進展に伴い、人・物をはじめ様々な文化・価値観が国境を越えて流動化するなど、変化が激しく先行きが不透明な社会に移行しています。

しかしながら、一方で私たちはここ数年来の大きな震災や集中豪雨から、改めて我が国が直面する危機を打破するための手がかり（教訓）を見いだすことができました。それは、どんな困難に直面しようとも諦めることなく状況を的確に捉えて自ら考えて行動する力、人々や地域の間、あるいは国々の間に存在する絆、人と自然が共生する力、これらをすでに身につけていたということです。

この私たちが持っている諦めない力で未来は切り開けると思います。未来は決まっているものでもなければ与えられるものでもありません。自ら創り出すものです。このような時代だからこそ、知恵と努力を結集して未来を変革して行かねばなりません。

日本の将来にとって皆さんのような若者は、かけがえのない財産です。今はまだ自分が社会に対してどれほど貢献できるのかを実感できる人は少ないかもしれませぬ。しかし、皆さんは間違いなくこの国の将来を担っていく人たちです。

私たちは、みなさんがそれぞれの果たすべき社会的な役割を見つけ出し、その使命に誇りをもって取り組んでいく大きな人物に成長することを目指して教育してきました。そし

て、卒業後のこれからも応援し続けていきます。

みなさんには、まだ自分自身でも気付いていない能力や適性があります。自分の可能性を過小評価したり、固定的に捉えたりするのではなく、本校で実践してきたように、これからの様々な分野で挑戦してください。そうすることで新たな長所や能力を発見することができます。どうか本校で培った「修猷魂」で苦難を乗り越えて欲しいと思います。

ドイツの哲学者ニーチェの言葉で「世界には、君以外には誰も歩むことのできない唯一の道がある。その道はどこに行き着くのかと問うてはならない。ひたすら進め。」というものがあります。これを私なりにみなさんへの最後のはなむけの言葉とするならば、「修猷健児諸君、世のため人のために己を信じてひたすら進め。そして今まで見たこともないものを創造せよ。諸君に幸多からんことを祈る。」

結びになりましたが、保護者の皆様には高いところからではございますが一言お礼を申し上げます。保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。今日まで育ててこられたご苦勞を思い起こされ感慨もひとしおのことと推察いたします。卒業生一人一人も保護者の皆様の深い愛情と支援があつてこそ、この日を迎えられたと感謝の気持ちでいっぱいであろうと思います。また、入学以来本校教育に深いご理解と並々ならぬご協力を賜り、誠にありがとうございました。お子様は本日をもちまして卒業していかれますが、今後とも末長く本校にご縁をいただきますようお願い申し上げます。

それでは卒業生の皆さん、名残は尽きませんが洋々たる前途に大きく羽ばたいて行く諸君一人一人のさらなる成長と限りない幸福を祈念いたしまして、式辞といたします。

平成三十一年三月二日